2023 年 12 月

気象と気象用語

松山地方気象台

【12 月の気象】

12 月は「寒冷」「厳寒」「寒気」など冬の寒さを表す季語が多くあり寒くなってきます。テレビなどで「冬型の気圧配置が強まり、季節風が強くなっています」と聞かれることがあります。「冬型の気圧配置」とは、大陸に高気圧があって日本の東海上から千島方面に発達した低気圧がある気圧配置を言います。また、気圧が日本付近から見て西が高く東が低い気圧配置となることから「西高東低の気圧配置」とも呼ばれています。図 1 は、冬型の気圧配置の天気図です。一般的に、このような時には、全国的に北西寄りの季節風が強く吹き、日本海側では大雪となり、太平洋側では乾燥した晴れの天気となります。愛媛県では、季節風が関門海峡を吹き抜けてくるため、北西の風がさらに強くなり、寒気が強い場合には海上で発生した雪雲が県内に流れ込むことがあります。今冬は、現在発生しているエルニーニョがこの冬も継続する予想となっており、暖冬となる可能性が高くなっています。

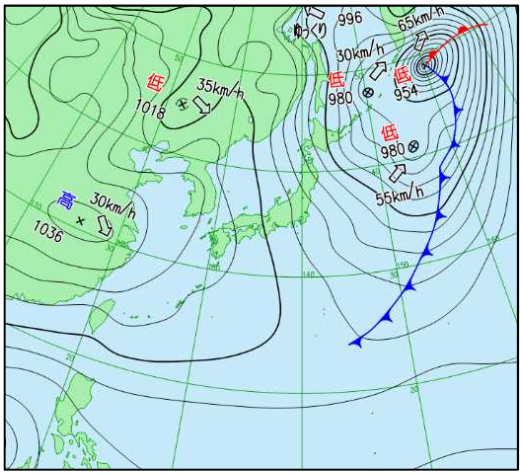

図 1 地上天気図（2021 年 12 月 18 日 9 時）

【気象用語】「令和 4 年 12 月 22 日～24 日の大雪」について

1 年前になりますが、令和 4 年 12 月 22 日～24 日にかけ、愛媛県は大雪となりました。四国の上空約 1500m に氷点下 9 度以下の強い寒気が入り、地上では西高東低の冬型気圧配置となりました（図 2）。久万高原町には断続的に雪雲が入り、23 日夜には積雪が 76cm となる大雪となりました。松山でも、雪が降りましたが、積雪となるほどではありませんでした。

この事例では下層風は北西風となったため、雪雲は関門海峡を通り中予に入りました。また、冬型気圧配置は 1 日以上継続し、下層の風向はあまり変化が無く、同じところで雪が降り続け、中予の山地を中心に大雪となりました（図 3）。この大雪により、道路の通行止め、孤立地区が発生しました。

松山地方気象台では 21 日から大雪に関する愛媛県気象情報を発表し注意を呼びかけ、23 日には中予、南予北部の一部の市町に大雪警報を発表し、大雪に対する警戒を呼びかけました。

今年の冬は暖冬傾向でありますが、一時的に強い寒気が入り、大雪となる可能性はあります。気象台では、大雪となる可能性があれば、大雪に関する情報を発表し注意を呼びかけます。この情報を見聞きしたら、大雪に対する備えをお願いいたします。

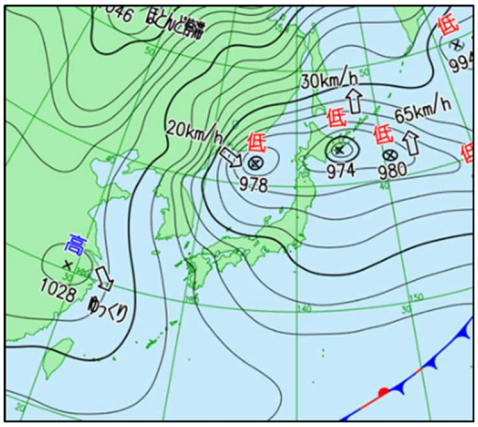

図 2　地上天気図（2022 年 12 月 23 日 9 時）

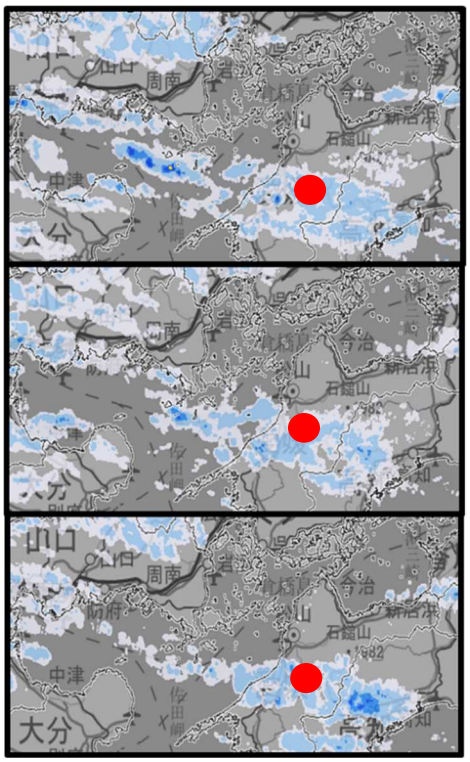

図 3　雪雲の動き（上：23 日 9 時、中：23 日 15 時、下：23 日 21 時）

●：久万高原町付近